災害時の支援について事前に考えておきましょう

「誰(支援者)」が、「どの人(要配慮者)」に、「何(支援の内容)」をするのか、それぞれの役割と、その内容をあらかじめ考えておきましょう。要配慮者の方々は、自力ですばやく避難できない、災害情報を入手できない、助けを呼ぶことができないなど、一人ひとり必要とする支援の内容が違います。それぞれの特徴に配慮して支援の内容を考えておきましょう。

要配慮者の状態に応じて、例えばこんな配慮が必要です。

※ここに記載されているのは、ほんの一例です。
このほかにどのような配慮が必要なのか考えてみましょう。

耳の不自由で言葉が発しづらい方々

広報のお知らせやサイレンの音が聞こえません。また、いざという時助けを呼べません。

筆記用の文字板や手話カードなどを用意しておきましょう。

目の不自由な方や意思疎通が困難な方

どのように行動したらよいのかわかりません。

障害物などがわかりません。

避難誘導を誰が行うのか、決めておきましょう。

体の不自由で移動が困難な方々

すばやく移動ができません。

車いすや担架などの移動手段を確保しておきましょう。

精神的に不安になりやすい方々

落ち着いた行動がとれません。

常備薬の名前や量を確認しておきましょう。

妊産婦・乳幼児を連れている方々

こどもを連れてすばやく行動できるか不安です。

緊急時の家族等への連絡方法は確認できているか、非常用の離乳食が準備できているかなど普段から考えておき、すぐ行動できるようにしておきましょう。

高齢者や内部障がいのある方々

持病を抱えていて体力的にも不安です。

かかりつけのお医者さんを確認しておきましょう。

外国人の方々

どのように行動したらよいのかわかりません

外国人向けに災害情報を発信する災害多言語支援センターなどのホームページや避難の場所などを普段から確認しておきましょう。